

## 平成29年度萬鉄五郎運営委員会会議録

### 1 開催日時

平成30年3月23日（金） 午後3時～午後4時50分

### 2 開催場所

花巻市東和町土沢8区60番地 花巻市市役所東和総合支所第2会議室

### 3 出席者

#### (1) 出席委員8名

平野広委員長、門馬優子副委員長、杉本吉武委員、斎藤純委員  
小笠原卓雄委員、佐藤牧子委員、菊池房江委員、菊池忠久委員

#### (2) 欠席委員2名

菅沼緑委員、菊池正樹委員

事務局5名（萬鉄五郎記念美術館）

市川生涯学習部長、中村館長、平野副館長、平澤主任主査、滝浦主査

### 4 会議の概要

#### (1) 開会 平野副館長

委員10名中8名の出席により会議が成立することを告げ、開会。この会議は、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針により公開するものであり、会議結果についても公表することとなっているので、会議録を調製し、委員各位の確認終了後、公表手続きを行うことを説明。

#### (2) あいさつ 平野運営委員長 市川生涯学習部長 中村館長

#### (3) 委員および出席職員の紹介

### 5 議 事

進行は平野会長が議長として進行。報告事項を議題とし、報告第1号平成29年度の美術館運営状況について事務局の説明を求めた。

#### ① 平成29年度事業報告について

平澤主任主査、滝浦主査、平野副館長：資料説明

(杉本吉武委員)

かねてから課題の美術品や図書資料の保管場所は、美術館のすぐ脇なり中にあるのが一番理想的だと思う。萬鉄五郎記念美術館では県内外の作家をメインに展示を企画して、ほかの美術館と違って、ちゃんとした図録を作ってこれは非常に偉い。これは残る仕事でたいへんな実績となっている。今まで萬の関係の図録も将来的にも立派な資

料となっている。県立美術館では萬に関してもそんなにない。人数くらべれば萬鉄五郎記念美術館が毎年2・3冊新しい作家の図録を作り展覧会をやった意味は大きい。続けて行ってほしいです。

(小笠原卓雄委員) 今の杉本さんの意見全くその通り。少ない人数でこれだけの企画やることはすばらしい。館長講座この場所でやるとどうしても人数が少ない。ですから街なかでやるとか検討していいんじゃないか、図書は図書館に預けてやるとか、収蔵作品は、もし可能であればまとめて研究に来た人も見られるようにするとか。

(佐藤牧子委員) 去年は収蔵場所がないということで、みなさん悩んでいたが青写真ができたということで良かった。寺島貞志先生の作品が保留とのこと、きっと収蔵していただけたと思う。寺島先生は恩師ですが作品がみんなキャンパスから外れて山積みになり積んであり私たちも見られなかった。それを今回の展覧会できちんと額にはめてくださって、学芸員の方たちどなたもご苦労だったと改めて感謝。会員の人から県展の移動展をぜひやってもらえないものだろうかと話もあるが、スケジュールがいっぱいですね。

(菊池房江委員) 親子で楽しむ企画を高く評価していると思う。小さい時から美術に触れ合うことで、子供の感性も養われ親も一緒に育っていくと思う。またうれしいことに集客数上がっている。絵本についての企画展の数字を拾って見れば6千、8千とか1万いくらの集客が維持されている。私いいなと思うのは親子パスポート(まなびキャンパスカード)、続けてほしいし広報でも周知してほしい。少し年代の高い人達もペアチケットとか。今回の没後90年展の県立美術館との共通チケットのようなものとか、誰かと一緒に足を運ばせるようなチケット、ナイトチケットとか少し夕方人が少なくなって来た頃にお得感のあるチケットを出してみるとか、たくさんの方に観ていただける、そういう手段を設けてそれをPRする方法もいいと思う。収蔵庫は何年来と毎回話題に出てきたことなので、空調湿度など必要なものを手厚くご配慮を要望する。

(菊池忠久委員) 昨年の没後90年企画展の時は他の美術館と調整を取りながらご苦労様。入館者数が減っているとのことですが、去年は鉄五郎展の計画2856人に対して3133人ですから10%アップしている。ほかの企画展も計画通りで、ここ数年1万人を維持しているのは素晴らしい。この規模の中で、やはり萬鉄五郎だけでは非常に難しいと思う。ましてや市民の皆さんは一度見てしまえば萬以外に目がいってしまう。そんな中で菊池房江委員さんがおっしゃったように、やはり絵本展というのは集客数をカバーしている企画で、葉祥明に5千人来ている。その辺は大事にして、小さい頃から美術になじむ企画が必要だ。収蔵品がいっぱいある中で、私が昨年の委員会で収蔵品を一般公開するような予定はないのかと伺ったところ、県立美術館ではインターネットで見ることができるが、当美術館ではまだ整備がされていないとのこ

とだった。やはりこの場所に来て見るのが大変、車で来なきゃいけない。「萬鉄五郎の作品を全国に知らしめる」にはインターネットを効率よく使って、入場者が頭打ちの中で、このような作品があることをアピールしていくことが必要と思う。来てもらうのにはお金もかかるし、市民であれば入場料だけで済むかもしれませんが、インターネットを通じて閲覧できるようにして、美術館としては今後その良さをアピールしていけばいいと思う。

(齋藤純委員) 入館者数がなかなか結び付かないという話でしたが、文部科学省が美術に興味あるのは人口比7%だということを出している。花巻市の人口9万8千人だとすると7%だと6800人。そうすると花巻市の文化芸術に関心ある人については、まず全員押さえているという数字、データだけ見れば。ここは花巻市のものだけでも県内全域からお客さん来るわけで、決してこれは悲観する数字じゃないと思う。県立美術館がずっと苦戦して5万何千人か。今年は7万人行きそうですけど、予算規模で比較しても県立美術館に劣らない数字だと思う。それと県立美術館で今年1番入ったのは篠山紀信展。堅いのはなかなか入らない。来年は岩合さんで稼ぐでしょうが、そういう数字も大事であり、美術館として大事な寺島展とか今後もやっていくという2足の草鞋体制をやっていただければと思う。なんで萬展入らなかったんでしょうね。県立美術館も入らなかったし、松本竣介展より入らなかった。

(平澤主任主査) 竣介展の場合は別だと思うが、岩手県立美術館で入らなかったのは私どももある程度は予測していたが、なぜかという聞き飽きている。見てはいないかもしれないが名前は聞き飽きていることかと思う。ただし神奈川県立近代美術館は黒字です。新潟は岩手と同じくらい。ただ全体としてカタログは売り切れてしまっていて残りがいない状況。

(中村館長) 地元のものが入らないのは、いつでも見れる、1回見てしまったと思っている。一般の人はですよ、私も経験ありますけど。

(門馬優子副委員長) 収蔵については実現しそうでうれしく思う。基本方針の中に県央の中核の美術施設として美術教育の一翼を担いと謳っているんですけど、全体的に見て美術教育自体がすごく低迷していますよね。軽じられているというか。美術教師の新しい採用もなかなか。専任で教えられる先生がすくなくなっているというのも非常に憂うべき状況だと思っていますけど、やっぱりそこで美術館が果たす役割は、これからは非常に大きくなると思う。萬美術館は、東和中学校のすぐ下にあるが地元の中学生でさえ見に来たことがない子は多いと思う。郷土のそういう偉大な芸術家画家のことを知るための教育が地元の学校で触れられているか、関心があまり及んでないというか、教える側も関心がないように思い、生徒たちも美術館に1回も足を踏み入れたことがないという現状は、どこかで変えていかなきゃいけないと常々思っている。子供たち対象の絵本展とかいい企画がいつもあるので、しかも期間が結構長くて夏休

み中に開いているので、葉祥明展は結構足を運んだ子供たちも多いかと思う。そういう点でもう少し小中学生への教育普及というか、何かもう一つ心に訴えるような工夫、具体的に何かって言われるとありませんが、昔だとアートを作るって美術好きの子供たちのための創作教育やっていた時代がありました。いまなかなかそういうことも難しいだろうとは思いますが、ぜひそういう企画も考えていただきたいと思う。それから館長講座は、シニア大学で聞く機会を設けていただいたというのはありがたいと思う。花巻にはシニア大学という大所帯があり、その中に芸術学部もある。芸術に関心のある中高年者なので、要請があったら行くんじゃないかと、売り込みにぜひ萬の話のみならず芸術一般の話を書く機会を作っていただければ生徒さんたちも喜ぶんじゃないかと思う。

(中村館長) 館長講座は本当なら来館者の集客のためにも美術館でやりたい。でも美術館はそのスペースがない。それで支所や図書館でやっている。花巻の中心部生涯学園都市会館で講座をやっている。必ずしもここに固執しないで、もう少し人のいるところに行くのも必要かなとは思っている。これまで萬だけではなくてルネッサンス時代からやってきたので、毎年3回ずつやって7年たち、21回ですか、市の中心に行ってやるなど、近代美術の印象派なども検討したいと思います。

(斎藤純委員) 門馬優子委員さんが学校のことに触れましたが、昨年度の小中学校の指導要綱で博物館美術館を利用することが明記されているが、例えば盛岡の場合、県立美術館ではなく小中学生は先人記念館に行くので美術館には行かないということになる。取り合いですね。この場合は、賢治記念館とか市立博物館でしょうか。学校がどう判断するかだと思う。

(菊池房江委員) エリックカール展で県立美術館に行ったときに私びっくりしました。高校生がいっぱい並んでいて、若い子たちが喜んでいました。その広報手段として県立美術館で学校に出向いて事前PRをしたようで、効果がすぐに表れていました。素晴らしい企画展を開催するにあたって、学校関係もそうですし一般の方たちにも、市の広報のページをいただいて、その魅力をいっぱい伝えていただいて、子どもさんたちと一緒に親子パスポート(まなびキャンパスカード)もあるので、PRしてほしい。

平野会長がほかに質問や意見がないか諮り、平成29年度萬鉄五郎記念美術館の運営状況について質疑を終結した。

## ② 諮問

諮問事項の審議に先立ち中村館長が諮問書を読み上げ、平野会長に諮問書を手渡した。続けて平野会長が諮問第1号平成30年度萬鉄五郎記念美術館運営計画を議題とし、事務局の説明を求めた。

平成30年度事業実施計画について

平澤主任主査、滝浦主査、平野副館長：資料説明

(門馬優子副委員長) 先ほど館長さんから前向きなご回答ありがとうございました。ハイビジョンソフトの要請がすくなくなっているということで寂しいなと思っておりますが、各振興センターにリストを配ってぜひ利用の呼びかけを行ったらいかがでしょうか。結構メニュー困っているようなので。

(斎藤純委員) 鉄人祭のゲストは決まりましたか

(平澤主任主査) 決まっておりません。

(市川部長) 今回お出ししている部分はあくまでも現時点の予定というか希望がかなり入っている。現在市全体として来年度までかけて市の公共施設マネジメント計画、つまり全体の計画を作っているところであり、市に施設はたくさんあり、各施設の改修計画それを維持していく計画を来年度までかけてつくっているところ。午前中も実は文化会館審議委員会が開催され、文化会館も雨漏りがあるなど、根本的にお金がない中でどう施設を維持していくか検討中ということ。その中で来年度収蔵庫の設計に入れるかというところかなり難しい。そうした中で、今までの経緯から、色々館のほうで検討している状況をお示しした。適切な時期に計画を提示していきたいと考えている。収蔵庫として、この規模で必要だという説得力のある説明ができないと予算化は難しいと思う。中身の問題では全ての部屋をガスで消火をするのか、そうすると経費は掛かるし、まだそういう細かいところは議論していない。3万冊の図書をそこにに入れても、保管しているだけということになりますので、図書館で見られるようにするとか、何冊かは展示する、使えるようにするようになったほうがいいのではないかなど内部では考えているところ。新図書館の建設もあるので、そちらにも一部保管するという可能性もある。いずれ、考えなければならぬ時期に来ているので、施設の総合マネジメント計画ができるので、もう少し明確にできるのは来年度かと思っている。当方の希望としてはこうだが、全体で考えるとなかなか難しいと思う。

(平野広委員長) 頑張っていたきたいとは思いますが、言ったとおりですね。収蔵だけしていても将来に向けいかにして見せるかということが大事。いかにせん、絵画とかとなりますと、専門家じゃないと見せられないところがあったり、異動があったり民間が入れるようなものがあればまた動くのかなど思ったりもするけれども難しいところ。

(小笠原卓雄委員) 図書館のほうに持っていくというのも考えられるが、その3万冊の閲覧場所どうするか大変だなと。それと八丁土蔵の展示室ですが、やってみると展示に向いてない施設になっている。ですからあそこはやはりもうちょっと考えな

くちやならないと思う。改修したほうがいいのか、あるいは別なものに使うことにして展示する場所をどこか別の場所に、市内にサテライトで作るとかそうしてもいいかと思う。

(平野広委員長) 3万の蔵書があると聞いてびっくりした。一つの美術の図書館ができるくらいの、それだけでも一つ目玉になるんじゃないかという数だが、いかんせんどう展示するかどこに収蔵するか相当難しい問題になると思う。

### ③ 意見集約

平野会長が諮問第1号の内容について、当運営委員会は原案のとおり可とすることに意義がないか諮り、満場で原案どおり答申することに決定された。提案された意見等は整理の上付帯意見として答申書に記載することとした。

平野会長が各委員にその他の意見や要望等を求めたがなく、以上で議長職を退任する旨を告げた。

### 6 その他

現委員は本年5月31日で任期満了につき、引き続き委嘱したい旨平野副館長よりお願いした。

7 閉会 平野副館長 16時50分閉会